

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 12 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470500780		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム あすらや荘		
所在地	〒737-0161 呉市郷原町2380番地 (電話) 0823-77-0949		
自己評価作成日	令和5年11月11日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470500780-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年11月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ハード面よりソフト面において、家族や利用者に満足してもらえるよう、職員個々が考え、行動できるように指導しており、積極的に業務に取り組んでいる。
施設全体で取り組んでいるノーリフティングケア（抱えない介護）を導入しており、利用者の状態を維持し、長くグループホームで生活いただけるよう取り組んでいる。
研修でも参加できるようにお互いに助け合いながら行っており、関係性は良好である。
インシデント（事故）やヒヤリハットも発見者や当事者が家族に説明を行うようにしており、不在時にも他の職員が説明を行えるよう、情報の共有を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は理念である合言葉「利用者も職員も気持ち良く幸せになれる人気の施設」「明るい笑顔でつながり安心できる技術を提供します」のもと、あすらやビジョンの確立を当期下半期から取り組んでいる。即ち法人全体として「顧客満足度・社会的信用・職員満足度」を中心に認知症高齢者を事業所・施設（認知症専用棟・介護老人保健施設）・通所リハビリテーション・短期入所で複合的・包括的に支援する体制を推進している。利用者の思いを優先する支援の基盤の一つとして事業所の方針でもある「適切な介護の提供」のためノー・リフティング・ケア（抱えない介護）の手技を法人全体の研修体系に取り込み、利用者の重度化に対する自立支援として職員の資質向上に繋げている。事業所は月1回の全体会議の中で実践事例発表を行い、効果の検証を行っている。

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・合言葉を決め、朝礼時に復唱するようにしている。	合言葉を事業所理念として掲示・唱和し、実践上の立ち返るべき原点として位置付けている。その理念のもとに具体的な事業計画・部署目標を定め、職員会議で定期的検証を行うと共に理念を踏まえた職員個人の半期毎の目標も設定し、リーダー等との個人面談でその達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議にご家族の他、地域の自治会長、民生委員会、地域包括支援センター職員にご参加いただいている。	母体法人が自治会に加入し地域活動に協力している。事業所の利用者は受診や法事等で外出している。又、家族の面会や地域住民が運営推進会議に参加したり、音楽ボランティアの訪問も再開となる等、双方向の交流と共に地域大学の看護実習生や中学校の職場体験の受け入れ等、世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学や実習等の希望を積極的に受け入れ、理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より中止している。令和5年8月より運営推進会議を再開。面会時間の延長希望の意見があり、令和5年11月から面会時間を15分から30分に延長している。	コロナ禍で中止となっていた会議は今年の8月から再開され定期的に開催している。会議は納涼祭や系列施設見学会と同日開催で9～12組の家族の参加を得ている。他に自治会会長・民生委員・地域包括支援センター職員等も参加し、参加者からの要望で面会時間が倍の30分に延長された例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、情報共有を図っている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し、事業所運営について情報共有をしている。又、市町とは日頃の相談・連絡や運営推進会議の開催報告書等の提出や虐待防止の研修にオンラインで参加する等、連携強化を図っている。生活保護の利用者に対し生活課職員の訪問もある。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、身体拘束防止委員会にて各事業所間で情報を共有し、協力体制を敷いている。	定期的な法人身体拘束防止委員会や事業所研修会・スタッフ会議等を通し、職員は拘束しない必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。日中はユニット間は施錠せず、玄関は施錠し見守り対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、虐待防止の委員会や指針等について、努力義務である令和6年3月31日までに各事業所間で整備に向け進めている。	/	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が確保できていない。	/	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書を渡し、説明を行っている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内の苦情処理委員会を設置している他、第三者委員や外部委員会を法人で設置し、対応している。家族には面会時や電話で日常生活の状況を説明し、希望に沿った支援を行えるよう努めている。	利用者の要望は普段の会話を通じて把握し、家族とは面会時・介護計画見直し時・運営推進会議・年1回の家族交流会等で管理者や職員が把握する様に努めており、連絡ノート等に残し職員間で共有している。家族からの要望で面会時間が従来の15分から30時間に延長された例がある。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に管理者及び各部署の主任・リーダーが話し合うスタッフ会議を毎月設け、情報共有を図っている。	毎日の申し送り、毎月のスタッフ会議、各種委員会、年2回又は随時の個別面談等を通して意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。職員提案により、老朽化していた流し台の全面改修や門扉の修繕等の環境整備がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年間を上期・下期に分け、部署目標に応じた個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、研修の案内を配布し、参加を呼びかけている。施設内でも年間計画を作成し、準じて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所と情報交換や交流をするよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、本人と話す機会を作り「生活歴・本人のこだわり」を大切にサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、家族と話す機会を作っている。 また、待たれている際も、適宜様子伺いの連絡を入れながら家族との関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前の面接で家族や本人の状況を把握し、意向の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の性格や生活リズムを把握する所から始め、荘内での行事や日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切に、関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	対面での面会により、本人と話す機会を設けている。 外出や外泊は、新型コロナウイルス感染症の影響により制限を設けている状況となっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況である。 本人との電話やオンライン面会で関係性を維持している。	「訪問しやすい事業所・地域との絆」を重視し、現在は感染対策を徹底した上で居室での面会が可能となっている。遠方の家族とのオンライン面会や電話・手紙のやり取りの他、法要等、特別な事情による外出等、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も会話に参加し、利用者同士の関係が良好となるよう促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ敷地内の特養や老健と連携して入退所を行い、本人・家族の将来的な不安の軽減に努めるよう事前に説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人へ強制することなく、一人ひとりの意向に沿った生活が送れるよう、自己決定を尊重するように努めている。	職員は利用者と一緒に話さず深く関わりを持ち、思いを汲み取って職員会議・介護計画に反映する等、思いの共有に努めている。利用者の生活歴や基本情報から馴染みのある事が不安なく継続できる様支援し、服薬順守・花の水やり等、今出来る事、出来て自信になる事を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接で、家族に聞き取り、反映するようしている。入所後も家族の面会時に新しい情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日個人記録にてその日の様子や心身の変化を記録し、入所当初は3ヶ月毎にモニタリングを行い、1年に1回見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>事前に家族や本人から聞き取りを行い、関係職種が集まり、カンファレンスを行い、作成している。</p>	<p>利用前の生活環境が事業所でも出来るようにする事及び事業所で生活する中でいい点を伸ばし、気になる点は整えていく事を立案の視点としている。半年毎(新規は三か月毎)にモニタリング・計画の見直しを行っている。薬を飲む時間にこだわりの強い利用者に対し服薬時間順守の立案例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、日々の様子について、個人記録を作成し、連絡ノートにて職員間で情報の共有をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の状況に合わせてサービスが提供できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>外出行事が出来ていない中、施設内で楽しめる行事を計画し、実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と連携を図りながら支援している。必要に応じて、家族とかかりつけ医と話し合う機会を確保し、情報を共有している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。内科協力医から月1回の訪問診療又は受診があり、他科受診は事業所又は家族が協力している。非常勤看護師の配置や施設内に歯科診療室を整備して週1回協力歯科医の訪問歯科が受けられる体制もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	特養診療所の看護師と日々の様子について、報告を行い、連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設で生活している情報を口頭・書面にて報告している。退院の許可が下りた際は、事前に面接に行き、退院後も安心して生活が送れるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	同敷地内の特養・老健との連携を図っており、多職種とご家族と状況に応じ、終末期ケアの実施に向け取り組んでいるが、重度化が見込まれる場合は家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有し、適切な支援が行えるよう努めている。	利用開始時に基本的な方針を説明し理解を得ている。原則看取りは行わず、重度化した際には関係者で話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。予め介護老人福祉施設等への申し込みの検討や協力医との医療連携をもとに入院による十分な医療支援体制に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内で毎年定期的に急変時の対応や心肺蘇生法などの研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応について、全職員が身につけられるよう部署内で机上訓練を行っている。水害、地震に対するマニュアルを整備しており、火災以外の訓練を行っていく予定。	夜間想定や利用者も参加して法人全体で定期的に火災避難訓練を行っている。防災マニュアルは整備しているが、BCP(事業継続計画)は整備中である。地域との協力体制については隣接施設が地域の福祉避難所として位置付けられており、災害時の備蓄は隣接施設厨房で一括管理している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「不快感・不安感」を与えないように傾聴から入り、相手を尊重した対応が実施できている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮して関わり、職員はコロナ禍でマスク着用だが、なるべく笑顔で相手の目線に合わせる様に努め、不適切な対応には職員間でも注意し合っている。個人ファイルも書類庫の扉を閉めて個人情報に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	納得のいく説明や声掛けを行い、本人の希望や意見を聴くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	見守り・体調変化の確認に留意し、日課行事の参加は本人の希望を聞く等、一人ひとりのペースを大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族や本人の希望を取り入れ、本人らしく生活が送れるよう支援している。また、ご家族にも協力を依頼し、季節感ある洋服を持ってきてもらうよう説明している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた食事を提供しているが、苦手なものには代替品を用意する等の対応をしている。毎月、料理教室やお誕生日会で行事食を提供し、楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。また、食事の片付けをお願いしている。	隣接施設の厨房で作った料理を事業所で盛り付けや配膳を行っている。利用者も食事の片付け等、役割に応じた日課を行い、不特定の食事作り・おやつ作りや開荘記念日には刺身の船盛等、食が楽しめる様工夫している。食事姿勢についてもリハビリ職の協力やいすの高さ等にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の好みを把握し、身体状況に応じてトロミ使用、冷温とそれぞれ個別提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、歯科受診を定期的実施し、出来る限り食事がとれるように気を付けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位可能な利用者は必ずトイレで排泄が出来るよう声掛け・誘導を行っている。日中はトイレ誘導し、夜間はおむつ対応にするなど状況に応じて対応するようにしている。</p>	<p>排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握している。排泄の自立支援として入院中の紙おむつから紙・布パンツへの移行や日中は布パンツ、夜間は紙パンツ又は紙おむつ対応等がある。夜間排泄時の転倒防止の為、ベッド周辺にポータブルトイレや床センサーマットを設置することもある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>緩下剤服用もあるが、冷たい牛乳の提供や散歩や事業所内の廊下を歩くなど、運動することで排便コントロールしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応し、週2回の入浴実施を提供している。足を上げることが難しい利用者には手すりや台など用意し、介助にて入浴できるよう支援している。拒否される利用者には時間をずらして再度試みるなど臨機応変に対応している。</p>	<p>週2回の午前又は午後浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣により柔軟に関わり、お風呂嫌いの方には波長合わせで対応している。ユニット毎に浴室の広さが異なり、利用者の状態により使い分けている。浴槽台等の環境整備や季節を感じられる様、柚子湯を提供する事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>自室で休んだり、ホールで対話をしたりと、それぞれマイペースに過ごしてもらっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬処方時に目的や服薬時間を確認し、誤薬防止のために指示された事を個別に経過報告すると同時に生活記録に記録している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>本人の身体状況を見極め、趣味や特技を活かして、出来ることを無理のないように行うことで満足感や喜びを味わってもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、外出行事は実施出来ていない。法要などご家族、本人にとって必要なケスに関して、施設内で協議し、飲食を控えるなど感染症対策を徹底した上で、参加出来るよう支援している。</p>	<p>コロナ禍の緩和に応じ、利用者の希望により少人数で敷地内散歩や屋外で花の水やりをしたり、家族の協力も得ながら受診等で外出している。又、法要や帰省した親戚の子に会う等、特別な事情による外出により馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>施設の立替金で対応し、ご家族へ請求をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>定期的に「かわらばん」を作成し、ご家族へ送付している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間が不快にならないよう、季節に応じた装飾を行い、目で楽しめるよう工夫している。</p>	<p>回廊は明るい光が差し込む開放的な空間であり、屋内照明もLEDに変更した。季節が感じられる様、玄関の花壇や季節行事の飾り付け・利用者で作った習字等の壁掛け作品を掲示している。居間にある仏壇で毎夕のお勤めをしたり、屋内で迷わないために居室に表札、案内表示をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者が生活しやすいよう、家庭的な雰囲気が感じられるよう努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッドとタンスは用意しているが、それ以外に入所時や面会時に本人や家族から希望があれば、以前から慣れ親しんだ衣類や家財道具を持参してもらい、以前の生活空間に近づけるように家族にも協力を得るようにしている。</p>	<p>居室にはベッド・タンス等が備え付けられ、ソファ等、使い慣れた物や家族の写真等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のためポータブルトイレや床センサーマットを設置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人ができることは何か模索しながら、一緒にゴミ捨てや洗濯を干したり畳んだり、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目(グループホーム①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念・合言葉を決め、朝礼時に復唱するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議にご家族の他、地域の自治会長、民生員会長、地域包括支援センター職員にご参加いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学や実習等の希望を積極的に受け入れ、理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より中止。令和5年8月より運営推進会議を再開。面会時間の延長希望の意見があり、令和5年11月から面会時間を15分から30分間に延長。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加いただき、情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、身体拘束防止委員会にて各事業所間で情報を共有し、協力体制を敷いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、虐待防止の委員会や指針等について、努力義務である令和6年3月31日までに各事業所間で整備に向け進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が確保できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書を渡し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内の苦情処理委員会を設置している他、第三者委員や外部委員会を法人で設置し、対応している。家族には面会時や電話で日常生活の状況を説明し、希望に沿った支援を行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に管理者及び各部署の主任・リーダーが話し合うスタッフ会議を毎月設け、情報共有を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年間を上期・下期に分け、部署目標に応じた個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、研修の案内を配布し、参加を呼びかけている。施設内でも年間計画を作成し、準じて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所と情報交換や交流をするよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、本人と話す機会を作り「生活歴・本人のこだわり」を大切にサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前に面接を行い、家族と話す機会を作っている。 また、待たれている際も、適宜様子伺いの連絡を入れながら家族との関係を作っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用前の面接で家族や本人の状況を把握し、意向の確認を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人の性格や生活リズムを把握する所から始め、荘内での行事や日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切に、関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>対面での面会により、本人と話す機会を設けている。 外出や外泊は、新型コロナウイルス感染症の影響により制限を設けている状況。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況。 本人との電話やオンライン面会で関係性を維持している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も会話に参加し、利用者同士の関係が良好となるよう促している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ敷地内の特養や老健と連携して入退所を行い、本人・家族の将来的な不安の軽減に努めるよう事前に説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人へ強制することなく、一人ひとりの意向に沿った生活が送れるよう、自己決定を尊重するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接で、家族に聞き取り、反映するようしている。入所後も家族の面会時に新しい情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日個人記録にてその日の様子や心身の変化を記録し、入所当初は3ヶ月とにモニタリングを行い、1年に1回見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>事前に家族や本人から聞き取りを行い、関係職種が集まり、カンファレンスを行い、作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、日々の様子について、個人記録を作成し、連絡ノートにて職員間で情報の共有をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の状況に合わせてサービスが提供できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>外出行事が出来ていない中、施設内で楽しめる行事を計画し、実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と連携を図りながら支援している。必要に応じて、家族とかかりつけ医と話し合う機会を確保し、情報を共有している</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	特養診療所の看護師と日々の様子について、報告を行い、連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設で生活している情報を口頭・書面にて報告している。退院の許可が下りた際は、事前に面接に行き、退院後も安心して生活が送れるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	同敷地内の特養・老健との連携を図っており、多職種とご家族と状況に応じ、終末期ケアの実施に向け取り組んでいるが、重度化が見込まれる場合は家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有し、適切な支援が行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内で毎年定期的に急変時の対応や心肺蘇生法などの研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応について、全職員が身につけられるよう部署内で机上訓練を行っている。水害、地震に対するマニュアルを整備しており、火災以外の訓練を行っていく予定。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「不快感・不安感」を与えないように傾聴から入り、相手を尊重した対応が実施できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	納得のいく説明や声掛けを行い、本人の希望や意見を聴くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にしたいし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	見守り・体調変化の確認に留意し、日課行事の参加は本人の希望を聞く等、一人ひとりのペースを大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族や本人の希望を取り入れ、本人らしく生活が送れるよう支援している。また、ご家族にも協力を依頼し、季節感のある洋服を持ってきてもらうよう説明している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた食事を提供しているが、苦手なものには代替品を用意する等の対応をしている。毎月、料理教室やお誕生日会で行事食を提供し、楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。また、食事の片付けをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス, 水分量が一食を通じて確保できるよう, 一人ひとりの状態や力, 習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の好みを把握し、身体状況に応じてトロミ使用、冷温とそれぞれ個別提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように, 毎食後, 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、歯科受診を定期的実施し、出来る限り食事がとれるように気を付けている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし, 一人ひとりの力や排泄のパターン, 習慣を活かして, トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位可能な利用者は必ずトイレで排泄が出来るよう声掛け・誘導を行っている。日中はトイレ誘導し、夜間はおむつ対応するなど状況に応じて対応している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し, 飲食物の工夫や運動への働きかけ等, 個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>緩下剤服用もあるが、冷たい牛乳の提供や散歩や事業所内の廊下を歩くなど、運動することで排便コントロールしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように, 職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに, 個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応し、週2回の入浴実施を提供している。足を上げることが難しい利用者には手すりや台など用意し、介助にて入浴できるよう支援している。拒否される利用者には時間をずらして再度試みるなど臨機応変に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自室で休んだり、ホールで対話をしたりと、それぞれマイペースに過ごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬処方時に目的や服薬時間を確認し、誤薬防止のために指示された事を個別に経過報告すると同時に生活記録に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の身体状況を見極め、趣味や特技を活かして、出来ることを無理のないよう行うことで満足感や喜びを味わってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症の影響により、外出行事は実施出来ない。法要などご家族、本人にとって必要なケースに関して、施設内で協議し、飲食を控えるなど感染症対策を徹底した上で、参加出来るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設の立替金で対応し、ご家族へ請求をしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	定期的に「かわらばん」を作成し、ご家族へ送付している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間が不快にならないよう、季節に応じた装飾を行い、目で楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者が生活しやすいよう、家庭的な雰囲気を感じれるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドとタンスは用意しているが、それ以外に入所時や面会時に本人や家族から希望があれば、以前から慣れ親しんだ衣類や家財道具を持参してもらい、以前の生活空間に近づけるように家族にも協力を得ようしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人ができることは何か模索しながら、一緒にゴミ捨てや洗濯を干したり畳んだり、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目(グループホーム②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあすらや荘

作成日 令和6年1月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・4・5	事業所とご家族、地域、市町との連携について。	・運営推進会議の継続。	・意見の出しやすい雰囲気作りをしていく。 ・意見、要望を運営内容に反映させていく。	2024年1月～ 2025年3月
2	18	日常的な外出支援について。	・外出行事の再開。	・感染症対策を徹底した上で、外出行事を再開していく。	2024年1月～ 2025年3月
3	36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について。	・個人ファイルの棚を鍵のかかる書類棚に変更し、プライバシーに配慮する。	・鍵付きの書類棚を購入する。	2024年1月～ 2024年6月
4	48・52	役割、楽しみごとの支援。 居心地の良い共用空間づくり。	・グループホームの畑の活用方法について協議する。	・グループホームの畑の活用方法について協議をする。	2024年1月～ 2024年6月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。